

# イラン

## Islamic Republic of Iran

	2009年	2010年	2011年
①人口:7,590万人(2011年)			
②面積:164万8,195k㎡			
③1人当たりGDP:6,360米ドル (2011年)			
④実質GDP成長率(%)	3.9	5.9	2.0
⑤消費者物価上昇率(%)	10.8	12.4	21.3
⑥失業率(%)	11.9	13.5	15.1
⑦貿易収支(100万米ドル)	19,079	35,274	20,935
⑧経常収支(100万米ドル)	9,477	25,276	18,850
⑨対外債務残高(グロス)(100万米ドル, 期末値)	21,526	22,814	22,920
⑩為替レート(1米ドルにつき, イラン・リアル, 期中平均)	9,864	10,254	10,616

〔注〕⑦⑧⑨:イラン年度(3月21日～翌年3月20日), ⑦⑧:国際収支ベース, 2011年は第1四半期のみ, ⑨:2011年は第1四半期末  
〔出所〕①③～⑥⑩:IMF, ②:イラン国立地球科学データベース, ⑦～⑨:イラン中央銀行

### ■経済成長は減速の見通し

IMFによると2011年のイランの実質GDP成長率は2.0%で、前年の5.9%から大きく減速した。農業部門が不振だったことや、2010年12月に開始した補助金改革(ガソリンを含むエネルギーや食料への政府補助の段階的削減)が、経済成長率を押し下げた。2012年の見通しは0.4%で、イラクとサウジアラビアの石油生産量の増加、リビアの石油生産量の回復が、イランの石油生産に影響を与えることから、産油国の中では低調になる見込みだ。

OPECの市場月報(2012年7月)によると、OPEC12カ国の日量平均原油生産量のうち、イランが占める割合は、12.7%(2010年, 371万バレル), 12.2%(2011年, 362万バレル), 10.9%(2012年第1四半期, 338万バレル), 9.9%(2012年第2四半期, 310万バレル)と低下している。イランは世界4位の石油の確認埋蔵量と生産量(英国BP統計)を誇る石油大国で、経済の根幹を成す石油産業の低迷は、経済不調の要因となる。

### ■輸出は前年度比増加, 輸入は減少

イラン税関は、2011年度の非石油部門(石油・ガス製品を含む)の輸出統計(通関ベース)と全部門の輸入統計を公表している。2011年度の輸出(非石油部門)は前年度比19.4%増の314億3,036万ドル、輸入は5.4%減の609億1,360万ドルだった(2010年度は品目別と国別の統計で、合計額が異なる)。

輸出を品目別にみると、液化プロパン(前年度比36.9%増, 19億5,829万ドル)が2010年度に続き1位となった。2位はその他の液化ガス製品(2.2倍, 17億2,467万ドル)で、ポリエチレン(1.4%減, 13億5,393万ドル)、メタノール(25.7%増, 13億1,796万ドル)、その他ブタン(47.6%増, 11億8,650万ドル)と続き、いずれも10億ドルを超えた。尿素(9億7,673万ドル)、鉄鉱石(7億889万ドル)、石油アスファルト(7億449万ドル)、陰極銅(6億3,872万

ドル)、細工品および同部分品(5億9,816万ドル)までが上位10品目だった。

国別(非石油部門)にみると、中国(前年度比15.9%増, 53億300万ドル)が1位で、続いてイラク(4.4%増, 46億3,489万ドル)、アラブ首長国連邦(UAE)(28.6%増, 42億6,186万ドル)、インド(42.9%増, 25億9,553万ドル)、アフガニスタン(38.0%増, 18億4,612万ドル)の順となった。この上位5カ国の順位は前年度と同様だった。

ここ数年で主要な輸出相手国になった中国向けは、石油化学品の輸出が好調だ。イラク向けは、食料、飲料、建設資材、産業用機械、家庭用機器、補修部品などが中心

表1 イランの主要品目別輸出入

	(単位:100万ドル, %)			
	2010年度	2011年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計*	109,312	(38,751)	(100.0)	n.a.
石油部門(石油部門, 天然ガス, 同製品含む)*	86,713	(33,335)	(86.0)	n.a.
非石油部門*	22,599	(5,417)	(14.0)	n.a.
非石油部門(石油・ガス製品含む)	26,327	31,430	100.0	19.4
液化プロパン	1,430	1,958	6.2	36.9
その他の液化ガス製品	797	1,725	5.5	116.5
ポリエチレン	1,374	1,354	4.3	△ 1.4
メタノール	1,049	1,318	4.2	25.7
その他ブタン	804	1,187	3.8	47.6
尿素	432	977	3.1	126.2
鉄鉱石	1,051	709	2.3	△ 32.6
石油アスファルト	718	704	2.2	△ 1.9
陰極銅	593	639	2.0	7.7
細工品およびその部分品	84	598	1.9	612.0
輸入合計*	74,038	(17,816)	(100.0)	n.a.
輸入合計	64,364	60,914	100.0	△ 5.4
鉄鋼原料	2,935	2,844	4.7	△ 3.1
トウモロコシ	977	1,282	2.1	31.2
鉄鋼製品(鉄板厚さ3mm以下)	1,028	1,036	1.7	0.7
精米	911	973	1.6	6.8
リフトアップ生産にかかわる自動車部品	952	879	1.4	△ 7.7
大豆油かす	853	845	1.4	△ 0.9
小売り用医薬品	731	814	1.3	11.4
大豆油	631	784	1.3	24.3

〔注〕年度は3月21日から翌年3月20日。( )の数値は第1四半期のみ。

〔出所〕\*イラン中央銀行(国際収支統計)。その他はイラン税関(輸出は非石油部門のみ公表)。

表2 イランの主要国別輸出入

	(単位:100 万ドル, %)			
	2010 年度	2011 年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出合計	26,316	31,430	100.0	19.4
中国	4,575	5,303	16.9	15.9
イラク	4,440	4,635	14.7	4.4
アラブ首長国連邦	3,313	4,262	13.6	28.6
インド	1,816	2,596	8.3	42.9
アフガニスタン	1,337	1,846	5.9	38.0
日本	458	548	1.7	19.7
輸入合計	55,645	60,914	100.0	9.5
UAE	16,683	19,857	32.6	19.0
中国	5,744	7,023	11.5	22.3
韓国	3,620	4,483	7.4	23.8
ドイツ	4,561	3,954	6.5	△ 13.3
トルコ	2,461	3,306	5.4	34.3
日本	1,568	1,420	2.3	△ 9.5

〔注〕 輸出は非石油部門のみ(石油・ガス製品は含む)。  
〔出所〕 イラン税関。

だった。現在は、イラン・イラク間の貿易はイランからイラクへの輸出が大半だが、対イラク輸出では、トルコ、シリア、サウジアラビア、ヨルダンが、イランにとっての競合国となっている。イラクの人口の70%がシーア派で、イランもシーア派が人口の大半を占めており、同じ宗派の国民を多く抱えることが、イランとイラクの関係構築を後押しする要因となっている。2012年4月、イラクのマリキ首相がイランを訪問した際、イランのアフマディネジャード大統領は、「両国の政治、経済、文化関係の発展に障害はない」と述べており、両国の関係が深化する可能性がある。両国のヒトの往来も盛んで、イランからイラクには年間140万人が訪問、うち120万人がシーア派の聖地であるカルバラやナジャフに宗教巡礼のために赴いている。一方イランにも、年間74万人のイラク人が訪れている。

2011年の主要な貿易相手国側の統計で、イランからの石油および瀝青油の輸入をみると、中国が前年比80.7%増の217億4,700万ドル、日本が17.0%増の121億5,900万ドル、インドが1.5%増の95億900万ドル(推定値)、韓国が67.2%増の93億3,300万ドルだった。

輸入を品目別にみると、鉄鋼原料(前年度比3.1%減、28億4,448万ドル)が前年度に続き1位だった。2位はトウモロコシ(31.2%増、12億8,185万ドル)、3位は鉄鋼製品(0.7%増、10億3,575万ドル)だった。4位以降は10億ドルを割り込み、精米(9億7,331万ドル)、ノックダウン生産にかかわる自動車部品(8億7,907万ドル)、大豆油かす(8億4,482万ドル)、医薬品(8億1,429万ドル)、大豆油(7億8,408万ドル)と続いた。

上位100品目の中には、テレビ(13位)、パソコン(18位)、冷凍・冷蔵庫(36位)、洗濯機(41位)、エアコン(52位)などの電気製品が名を連ねているが、同製品では韓国製品のシェアが拡大している。これは消費者の声や市場調査に基づき、イランの消費者の需要に適合した製品

を素早く市場に投入する戦略が奏功したものである。

国別では、1位のUAE(前年度比19.0%増、198億5,708万ドル)に続き、中国(22.3%増、70億2,299万ドル)、韓国(23.8%増、44億8,303万ドル)、ドイツ(13.3%減、39億5,425万ドル)、トルコ(34.3%増、33億568万ドル)の順となった。日本(9.5%減、14億1,963万ドル)は9位で、主要品目は自動車およびトラックの部品などだった。

UAEのドバイ首長国は、イランと良好な交易関係を維持してきた。しかしUAEの中央銀行は、2010年6月以降、国内金融機関に対してイランの銀行との取引監視強化や、金融面での締め付けを強化した。2011年にはUAEとの貿易に大きな影響はみられなかったものの、2012年に入ってから、イラン向けの金融サービスが停止や縮小していることから、貿易面への影響が出はじめている。

国連貿易開発会議(UNCTAD)によると2011年のイランの対内直接投資(国際収支ベース、ネット、フロー)は、前年比13.8%増の41億5,000万ドル、同年末の投資残高は324億4,300万ドルだった。一方、2011年のイランの対外直接投資(同、推定値)は3億6,000万ドルで、2006年以降6年連続で3億ドル台となり、同年末の投資残高(推定値)は29億1,500万ドルだった。トムソン・ロイターによると、イランの対内クロスボーダーM&Aは2009年以降、対外クロスボーダーM&Aは2001年以降、実績がない。

### ■強化されるイランへの経済制裁

経済制裁の影響から、2012年の対イラン貿易は減少するとみられる。核開発疑惑に対する、2010年6月の国連制裁決議採択以降、国際社会はイランに対して制裁措置を相次いで開始した。米国は独自にイランの銀行、海運会社、港湾会社、航空会社などを制裁対象に加え、資産凍結、米国の個人・企業との取引の禁止を打ち出した。2011年11月、国際原子力機関(IAEA)がイランの核開発に関する報告書を公表した。これを受け米国は、英国、カナダと協調し、イランに対する包括制裁措置を発表、自国の金融機関に対して、イラン中央銀行を含む同国のすべての金融機関との取引を制限した。

さらに米国では2011年12月、イラン中央銀行と相当量の取引を行う外国金融機関と、米国の金融機関との間でのドル決済取引を原則禁止する「国防授權法」が成立した。同法には適用除外が設定されており、2012年3月には、ベルギー、チェコ、ドイツ、フランス、ギリシャ、オランダ、イタリア、ポーランド、スペイン、英国、日本の11カ国、6月にはインド、韓国、マレーシア、南アフリカ共和国、スリランカ、トルコ、台湾の7カ国・地域、その後、中国、シンガポールも適用除外リストに追加された。適用除

外を受けるためには、各国はイランとの貿易や金融取引を削減させる必要がある。このため、米国によるイラン制裁は、米国とイランのみならず、第三国のイラン貿易にも影響を及ぼしている。

一方、銀行間の送金ネットワークを提供する国際銀行間通信協会(SWIFT)は2012年3月、EUの制裁対象となるイランの金融機関へのサービス停止を発表。同月EUは、域内保険会社によるイラン産原油輸送船舶に対する保険サービスを2012年7月1日以降は提供しないことを決定。また、同年7月1日にイラン産原油のEU域内への輸入を禁止する制裁を実施した。

2012年に入ってからの対イラン貿易を主要相手国の統計で見ると、EU27(1~5月)はイラン向け輸出が前年同期比37.6%減、輸入が36.8%減となった。中国(1~6月)は輸出が21.4%減、輸入が10.9%減で、英国(1~5月)は輸出が51.0%減、輸入が30.6%減だった。一方、韓国(1~6月)は鉄鋼板や家電などを中心に輸出は26.2%増、輸入は0.4%増となっている。

一連の制裁強化はイラン経済に大きな影響を与えており、国内における外貨不足、イラン・リアルの下落、輸入品価格の上昇をもたらしている。2012年4月にはトルコ、5月にはイラク、6月にはロシアで、国連安全保障理事会の常任理事国5カ国にドイツを加えた6カ国との協議が開催され、並行してIAEAとの核協議が継続しているが、状況の進展はみられない。イランはこれまで再三、核開発疑惑を否定し、核拡散防止条約(NPT)署名国およびIAEA加盟国として核の平和利用の権利を主張している。

### ■ 日本の貿易赤字が拡大

日本の通関統計をドル換算すると、2011年の日本のイランへの輸出は前年比18.1%減の16億9,916万ドル、輸入は15.3%増の128億3,102万ドルだった。日本の貿易赤字は23.0%増の111億3,186万ドルに拡大した。

輸出を品目別にみると、主力の工業製品(構成比97.5%)は、前年比17.9%減だった。乗用車(ガソリンエンジンの1500cc超3000cc以下、28.1%減)、貨物自動車

(ディーゼルエンジン5トン超20トン以下、31.0%減)などを含む、輸送機械(29.5%減、構成比35.4%)の減少が影響した。工業製品のうち金属品(5.0%減)は、鉄鋼の減少(5.9%減)を受け、2年連続で落ち込んだ。輸送機械は、経済制裁の対象品目ではないものの、金融取引の制限により貿易取引が困難となっている。さらに、現地ディーラーへの支援などの面で、日本車との差別化を図る韓国、EU、中国との競争が激化している。イラン税関によると、2011年度(イラン年度)の完成車の輸入は約3万9,000台で、韓国車が約7割、日本車が約2割を占めた。

輸入を品目別で見ると、全体の99.2%を鉱物性燃料が占め、そのうち石油・瀝青油の輸入量は減少したものの、価格の上昇により、輸入額は前年比17.1%増加した。イランは日本の原油輸入先として、サウジアラビア、UAE、カタールに次いで4位となった。2010年に前年比で大きく伸びた天然ガス、製造ガスは、2011年は5.8%減だった。また輸入総額に占める割合は低いものの、ナツメヤシの実、クミンの種、じゅうたん・紡織用繊維の床用敷物は、日本にとってイランは最大の供給国だった。

1979年のイラン革命後、イランと日本の貿易取引は継続し、多くの分野で拡大したが、この2~3年は縮小傾向にある。特にエネルギー分野では経済制裁の影響により、石油・ガスの貿易を行う企業の活動が縮小した。日本からイランへの直接投資は、1993年以降実績がない。

2012年上期(1~6月)の日本の対イラン貿易は、輸出が前年同期比62.1%減、輸入が26.3%減と減少した。前述の米国防授權法の成立を受け、日本の金融機関はイランとの取引を縮小させている。また、日本政府はイラン産原油の輸入量を削減する方針を打ち出している。追加制裁として2011年12月に新たに106団体・1個人の資産凍結、イランの3銀行と邦銀のコルレス関係の停止を発表。2012年3月には、さらにテジャーラト銀行の資産凍結等によるコルレス関係の停止措置を発表した。これらにより資産凍結対象は計267団体・66個人、コルレス関係停止は計21銀行となっている。

表3 日本の対イラン主要品目別輸出入

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2010年		2011年			2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
合計	2,074	1,699	100.0	△ 18.1	合計	11,127	12,831	100.0	15.3
工業製品	2,019	1,657	97.5	△ 17.9	鉱物性燃料	10,992	12,733	99.2	15.8
機械機器	1,508	1,151	67.8	△ 23.7	石油、同製品	10,374	12,152	94.7	17.1
一般機械	531	422	24.8	△ 20.7	石油・瀝青油	10,353	12,122	94.5	17.1
輸送機械	853	601	35.4	△ 29.5	天然ガス、製造ガス	617	581	4.5	△ 5.8
電気機械	62	66	3.9	7.0	液化プロパン	484	449	3.5	△ 7.4
金属品	316	301	17.7	△ 5.0	液化ブタン	133	132	1.0	△ 0.2
鉄鋼	296	279	16.4	△ 5.9	工業製品	109	73	0.6	△ 33.6

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」をドル換算。